

経営比較分析表（令和4年度決算）

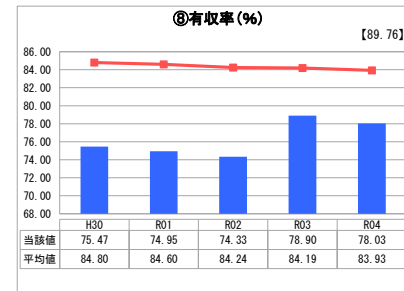
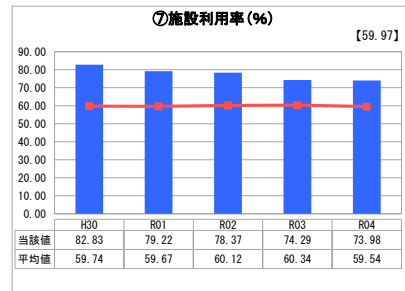
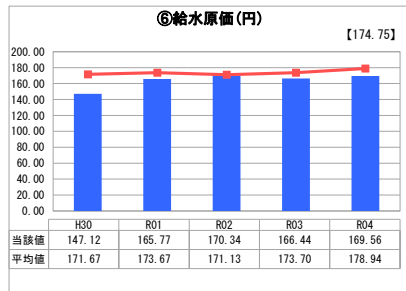
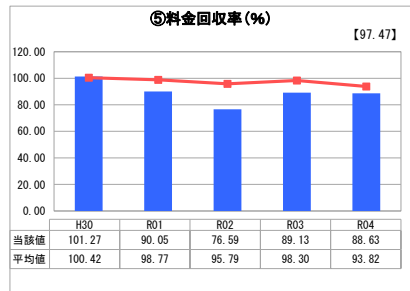
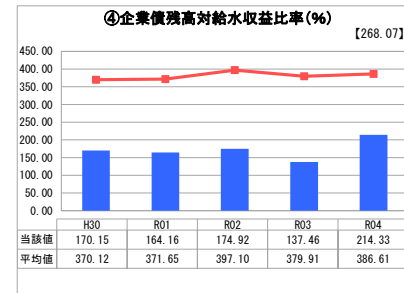
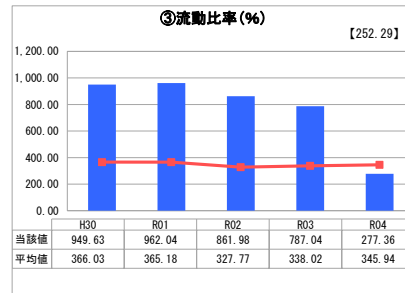
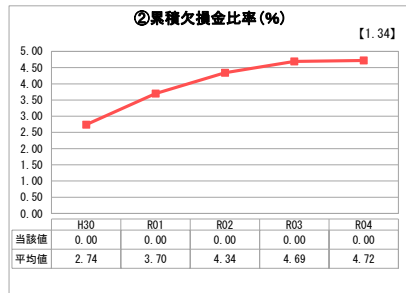
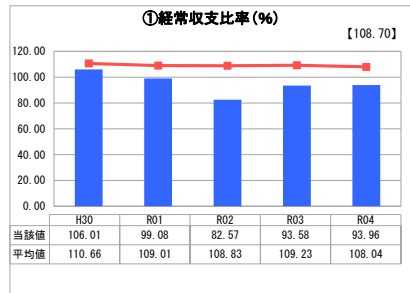
岡山県 備前市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	79.31	98.90	2,772	

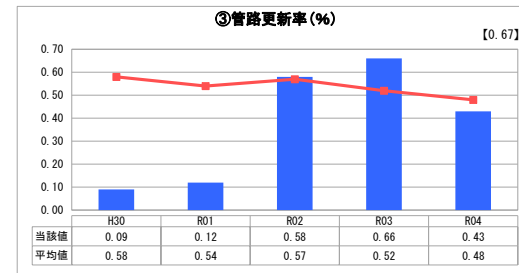
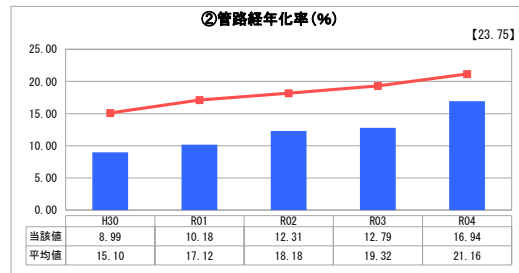
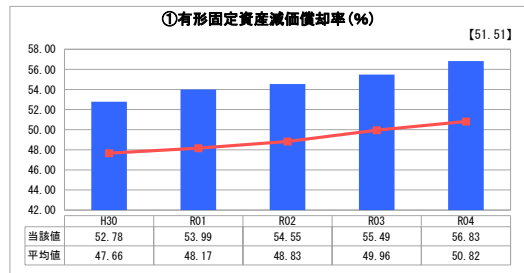
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
32,068	258.14	124.23
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
31,457	53.90	583.62

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性・効率性について、前年度に比べて人件費削減等により支出削減を図ったが、エネルギー価格高騰の影響が大きくなり5年連続の赤字決算となった。赤字幅自体は前年度よりも減少しており、①経常収支比率は改善したものの、給水収益の減少と事業費用の増加により⑤料金回収率は減少している。

⑧有収率は、漏水量の増加により0.9ポイント減少したため、漏水調査、管路調査を実施し有収率の向上に努めていく。

③流動比率の減少については、決算時における建設改良事業費用の未払金が一時的に増加したものであり問題ない。②④⑥⑦の指標についても、水準以上を保っている。赤字決算となったが、欠損金はなく、十分耐え得るだけの現金等もあるため、経営についても問題なく行える。

しかし、②累積欠損金比率については、今年度は0%であるが、今後も人口減や節水型機器の普及により給水収益が減少する一方、浄水場等水道施設の維持管理業務委託、老朽化による漏水件数に対する修繕費増、施設更新による減価償却費の増等経費増加により厳しい経営となると見込まれる。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は50%を超えており、施設の更新を計画的に実施していく必要がある。

②③管路については、年々経年化が進んでおり、早急に更新する必要がある。今年度は更新率が類似団体の平均値を下回ってしまったため、経年管の更新計画を再考し、前述の漏水調査、管路調査の結果も踏まえながら更新工事を推進していく。

全体総括

水道事業の経営は、給水収益の減少、動力費の増加等により、5年連続の赤字決算となり厳しい状況が続いている。主たる財源である給水収益の減少が今後も避けられない中で、より一層の経費節減を進める必要がある。

施設の老朽化も著しく、今後の更新には多額の費用を要するため、収支のバランスと効率性の観点から施設の統合や規模の見直しを行うなど、健全で効率的な経営に努める。